

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念自体は作ってないが、納涼会や福祉の集いへの参加、近所の保育園児の来所等の受け入れを実施している。 地元の公民館活動や地区活動への参加は出来ていない。	○	現在、自治会も出来つつある状況なので早急な参加は難しいが、地区の清掃活動や行事に施設から参加して行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りの際、その日の出勤者が復唱する事により管理者を含め各自が日々再確認している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で話しているが、取り組みとしては、もう少し取り組み方法が他にもあると思う。	○	自治会等に参加し理念や利用者様の地域で暮らす事の意味への啓発活動にも繋がるのではないかと思います。
J				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が子供と一緒に遊びに来たりして下さったり年一回 納涼会で地域の方々の参加を依頼している。 また散歩中 近所の方に挨拶を欠かさない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会も発足され、自治会も施設で行っており、地域の一員として機能している。	○	自治会・老人会・行事等への参加を今後はして行きたい。 自治会等との連絡や関係作りをしていき、行事等へも参加して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員会議等で話し合う事はあるが、実際の取り組みは少ない感じがする。	○	清掃活動や行事の支援等、どんな活動があるかわからないが、活動できる事があれば検討して行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長を筆頭に年に一度 必ず実施し意識付けを行っている。 また、職員も それを理解し実施している。	○	外部評価の様式や方法等が変化してきているが、必要な事だと思うので継続していく事が大切だと思う。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一方的ではあるが報告・相談している。また、話し合いをし最近では意見も出てくるようになった。	○	今後も定期的に行われ、地域の方、利用者様の家族様等から意見や要望等が出れば良いと思っている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が時々、市役所に出掛け担当者と話し合いをしている。	○	その時の内容を職員会議で話してくれているので良いと思う。 市の現状等も話して行ければ、もっと良いと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等には参加し必要性については理解していると思うが、関係者との話し合いの機会は少なく活用の機会も少ないと感じている。	○	権利擁護委員の方との話し合いの機会を作る事から始めたら良いと思う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し知識を得るように努力している。 また、事業所内でも虐待になるような事柄はないか、話し合いをするようにしている。	○	虐待の定義には非常に微妙な事柄も含まれてくるので、常に新しい研修会へ参加し事業所においても話し合いが必要になってくると思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際には重要事項説明書等を用いて説明し、退所の際には、家族と話し合いを行い納得して頂いてから退所して頂く等の配慮をし理解を図っている。	○	契約に関しては家族と話し合いを重ね納得して頂いた上で契約して頂いているので、今後も継続していけば良いと思う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見や苦情等を外部に表す場所については運営推進委員会等で表す事が可能だが、日々の不満等の細かい部分については表せてないように思える。	○	運営推進委員会等、せっかくの機会があるので、利用者様の日々の細かい不満や苦情等を外部に表すようにしていくと良いと思う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	施設独自の広報に利用者様の家族に宛て、受診や生活上の問題等、特変については都度 電話で連絡している。一ヶ月の様子や職員の異動等に関する事等を月に一度、必ず送っている。	○	現在、広報と言う形で利用者様ご家族に状況等をお知らせしている。 ご家族様からも「いつも読んでます」と言った声が聞かれるので、今後も継続した方が良いと思う。 ご家族様に連絡するのを切っ掛けに面会が増えると良いと思うので、そういった声掛けも加えて対応して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設置しているし、意見箱も各棟の玄関に設置し何度か貴重な意見を頂いた。	○	現在も苦情や意見等を頂ける状況が出来ているので、このまま継続して行く必要があると思う。 もう少し家族会を増やし家族の意見も聞いて行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で意見を聞き、運営の反映に努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご家族様の意見には出来る限り応えられるように話し合っている。 緊急な勤務変更は困難を要するが、出来る限りの調整を行なっている。	○	運営面からしても難しいとは思いますが、緊急時やご家族様からの要望にも柔軟に対応できるようにしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してから退職等はあったものの、人事異動は無く、利用者様との馴染みの関係は かなり確保されていると思っている。 遅番・夜勤の関係もあり月に一回以上、隣棟への勤務をしている。 馴染みの関係が保てるように月に1~2回は他棟に入って勤務している。	○	今は利用者様と馴染みの良い関係が出来ているので継続して行きたい。 このまま両棟が把握出来るよう、両棟勤務体制で良いと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会へ参加し研鑽に努めている。	○ 法人外での研修に関しては段階別の研修に参加しているが、法人内の研修は段階別の研修はあまり無い。 勤務の状況や、その他の諸事情により難しいとは思いますが、法人が大きくなれば段階別の研修もした方が良いと思う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修や施設見学等の活動を受け、質の向上に努めている。	○ 相互研修は今のまま続けて欲しい。 可能であれば他施設の見学や情報交換の場に職員が参加できる場があったら良いと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスが軽減するように困難な事について話し合いを設けている。 ストレス軽減の為の努力をしている。	○ 可能であれば視察を兼ねた社員旅行のような企画があっても楽しいと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の努力や実績を正しく評価し、向上心へと繋げるよう努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期面接は管理者が行い、入所後は居担をを中心に話をし努力している。	○ 居担を中心に行なっているので今のまま続けて行った方が良いと思う。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	出来る限り機会を設け、困っている事や不安を聞くようにしている。	○ ご家族様も仕事等で忙しいとは思いますが、出来る限りスケジュールを調整し相談を聞くようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談対応した時に殆どの場合が入所を決定して相談に来られる事が多く他のサービスを紹介する事は少ないが、他のサービスや対応方法をお話するようにしている。	○	当施設に相談に来られる方は殆どが入所を考えて来られるので、他のサービスを聞かれる事も無いが柔軟に相談に応じれるように心掛けている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設への入所となると、どうしても不安が増徴するので、不安にならないように可能な限り馴染みのある家具等を持ち込んで頂いたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人様の性格等を考慮しながら、声掛けをすると共に、本人様から昔の話や経験から得た知識等をお聞きしている。	○	今も一方的ではなくお互いに共存しているような良い関係が出来ていると思う。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からの要望には可能な限り対応し、悩みや憤りには相談に載るようにしている。 本人様の身体・精神的状況や変化については、ご家族様も職員もそれを同等に得ている。 常にご家族様と一緒に本人様を支援していく関係作りを心掛けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族様との関係を理解し、当施設で出来る事は可能な限り行なうようにしている。	○	プライバシー等に考慮し関係作りを行なっているが、施設や職員が入り込めない状況もあったりして対応が困難だが努力している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り馴染みの方に来所して頂いたり、出来る時にはその場所へ外出しようとしている。 また面会者の方が来た時等、寛いで頂けるような雰囲気になっている。	○	職員の配置やコストを考えると非常に難しいとは思いますが、馴染みの場所への外出支援も検討していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	人間同士のトラブルがあり難しいが、その際には必ず職員が間に入るようにしているし、トラブル時の対応についても棟会議や職員会議等で話し合いを重ねている。	○	人間同士の感情等は非常に難しく対応には苦慮するが、今後も棟で話し合いを重ね良い関係作りが出来る様にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了すると関係が希薄になってしまうが、必要な場合は継続するように努めている。	○	契約が終了しても施設の行事等に招いて関係が継続出来るように努めたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの思いを聞いたりしている。思いが困難な場合、日常生活を把握し本人様の立場になり考えている。	○	日常生活をしている中でコミュニケーションを取り、思いを詳しく把握して行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴やサービスの経過等は ご家族様等より情報を徴収したり本人様から聞く等している。	○	ご家族様との関係作りや定期的な来所も重要になってくると思う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の能力等を尊重し出来る事はして頂くように努めている。それに合わせ一日を過ごして頂いている。		個人の能力に合わせて生活して頂き、可能な限り自分らしさを継続して頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成の際に本人は勿論だが ご家族様の意見等も反映させるように努めている。		一番身近に居られるのが ご家族様なので、貴重な意見を頂戴し介護計画に反映させ暮らしやすい生活を送って頂けるように努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをしている。但し、変化の生じた場合は介護計画を変更させている。変化が生じた場合は介護計画を変更させているが、その場合は緊急の場合が多く、事後承諾の場合が多い。	○	なるべく見落としや特変があった場合は速やかに変更していくようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテに記入・記録し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かす様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在はグループホームしか無く多機能性と言った所では弱い部分があるが、可能な限りの要望に応えるようにしている。 ご家族様の状況によって往診や緊急時には受診する等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員やボランティア、消防等と協力し支援している。	○	学生ボランティア等の協力や交流のような事があっても良いと思う。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネと話し合い他施設のサービスが必要なのかQ等、検討し支援している。	○	他施設から得た情報を職員も周知し支援出来たら良いと思う。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターと話し合いをし利用者様の意向に添えるように努力している。	○	直接的に協働とまでは言えないかも知れないが、可能な限り意向に添えるように努めている。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を尊重し、かかりつけの病院で治療が受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医では無いが医師とは良い関係を築き、困った時は相談するようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域では無いが、利用者様の事を周知している看護職と情報交換している。	○	地域(近所)の看護職員が居られれば協力して頂ける関係が作って行ければ良いと思う。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院した場合、出来る限り早期に退院出来る様に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期には、早い段階でご家族様は元より、他施設や主治医と相談している。	○	本人様は当然だが、ご家族様にもかなりの負担が掛かる事なので、少しでも軽減出来る様に努めている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人とご家族様を中心に、主治医等と連携し可能な限り支援している。	○	とてもデリケートな問題で施設としても限界があるが、可能な限り支援していくように努めている。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者様には、かなり負担になるので十分に注意し、慎重に支援している。 また、関係者間とは話し合いを重ねている。	○	本人様やご家族様の意見を尊重し、心情等に配慮し、話し合いを重ね支援するように努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重し誇りを傷つけないように注意しながら支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意志決定を重んじ可能な限り自分で納得して頂き、決定して頂けるように支援している。 るように心掛けている。	○ 出来る限り納得して頂ける様に説明し、必要ならば一対一で話し、ご本人様に決定して頂けるよう支援している。 もっと、利用者の方が希望等を訴える環境(雰囲気)作りが必要
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者様に過ごし方を聞くようにしている。 食事の時間を個人の体調ペースに合わせて食べて頂いたり、なるべく希望に応じるように工夫している。	全員の意見を全て聞くのは難しいと思うが、可能な限り選択して頂き過ごせるよう支援していく。 利用者様の希望あった時、いつでも支援できるようにしたい。 一日の過ごし方、やりたい事を聞き日課に取り入れる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性の利用者様が多く、身だしなみには厳しく髪型等、自分なりの拘りを持っている。 入浴の際、化粧水、乳液使用したり髪の設定などしている。	○ 現在も身だしなみ等には拘っておられるし、その意見を尊重するように支援している。 男性も髭剃り等、注意しているので継続して行きたい。 本人の望む店あれば行けるよう支援したい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にとって食事は楽しみの一つである。 その楽しみを一緒に共有出来るように盛り付けや片付け等を、利用者様個人の能力に合わせ、一緒に行なっている。 盛り付け、片づけ等一緒にしている。	○ これからも利用者様の個人の能力に応じて継続して行きたい。 外食をとりいれたい。時々広告を見ながら献立も考えていきたい。 献立に利用者の方の希望をもう少し取り入れた
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気の事もあり個人の100%好み通りとはいかないが、可能な限り好みに添えるようにしている。	○ 誕生日の時等、好みの おやつにしても良いと思う。 もう少し楽しみを増やせるよう支援したい。一人一人に合わせていきたい。 おやつ購入など、利用者の方と出掛けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンを周知し個人に合わせた支援を行なっている。 おむつ等も可能な限り軽減出来る様に支援している。	○	今後も個人に合わせた排泄パターンや使用物品の把握をしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めて入浴して頂いており出来る限り、希望に添うよう努力しているが1番の入浴を希望される方が多く、全てを聞き入れる事は難しい。	○	可能であれば入浴日以外の入浴も出来たら良いと思う。 毎日、入浴したい方等の検討が必要だと思う。 一人一人の希望に応じられた入浴が出来たらいいと思う。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	現在は殆どの方が安眠されておられるので、特別に安眠に向けた支援と言うのは行っていない。ただ、日中の活動を多くしたりする等して夜間に安眠して頂ける様には心掛けている。 個々の体調等を観察し休憩が必要な方には声掛け等行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味のある方は趣味を活かし、生活歴を活かし洗濯や掃除等、能力の可能な限り役割を持って生活して頂いている。 調理、歌、習字等得意なことをして頂いている。誕生会では催し物をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方が殆ど居られず実際に所持して居られる方は少ないが、可能な方は所持して買物をしたりしておられる。	○	買物に出掛ける時は少しお金を持ってもらい好きな物を買えるよう支援したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や個人の体調等も考慮しながら可能な限り外出出来るようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と共に掛けた事は無いが、稀に個別に出掛けている。 年に2回くらい職員勤務を調整し出かけられる機会をつくっている。 不十分である。	○	年に2回くらいは行なわれているがいつも、急な企画になっている。前もって企画し家族への呼び掛けに余裕を持ち参加を多くし利用者様と交流を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力的に可能な方は電話や手紙のやり取りもしておられる。 希望があれば、スタッフ室の電話を使用して頂いている。	○	電話は難しいにしても手紙のやり取りは継続して行きたい。 年賀状や暑中見舞い等を家族や友人等に送れるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	寛いで頂ける様に、お茶等を出したり職員が馴染みの関係になるように努め、いつでも、気軽に訪問でき居心地良く過ごせる様心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 研修会等にも参加し自己研鑽にも取り組んでいる。 身体拘束しないケアをしている。 ベット柵を使用する際は本人、家族の同意をもらっている。直接的な身体拘束は行っていない。	○	拘束の定義が非常に微妙で判断に苦慮する場面もあると思うが、今後も研修会等に参加し常に新しい情報に耳を傾け、柔軟な対応が出来るように向上して行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵を掛けない様にしているが、職員の知らない間に利用者様が鍵を掛けている事がある。 職員も鍵の弊害について理解している。	○	鍵を掛けない様、掛けないようにする為にはどうしたら良いか話し合っ、鍵をかけない工夫を考え、更に鍵をはずせるようにしたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮し、近付き過ぎず離れ過ぎずの支援を行なっている。 安全を確保する為に所在や様子を見守るようにして居室におられる時は、巡回を多くしている。	○	プライバシーはとても難しい事柄であるが、難しい程は大切な事柄であるので、常に話し合いを重ね留意していく必要があると思う。 巡回をこまめにし安全所在をもっと、把握できるよう支援したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の状況に合わせ、必要・不必要を本人様の意見を聞きながら危険の防止に努めている。 注意の必要な物などスタッフで話し合い危険を防ぐ支援をしている。	○	本人様の価値観があり難しい課題ではあるが、生命にも関わってくる事柄なので、話し合いを重ね最適な方法で支援していくよう努める。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各研修に参加し知識を習得すると共に、個々の状況に合わせ事故防止に努めている。 薬は分かりやすいよう色などつけ工夫している。一人一人の危険を把握し事故を防ぐ為工夫している。	○	常に新しい研修会に参加する事も重要であるが、話し合いを重ねて行く必要があるし大切だと思う。 日々事故を想定しながら、それぞれに応じた対応を考えてケアに努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議で話し合いをし、研修会へ参加する事で知識を習得している。 年に2回消防訓練や人工呼吸などの訓練はしている。	○	定期的に訓練を続け常に新しい知識を習得し研鑽に努めて行く事が必要である。 しっかりとしたマニュアルがない。マニュアルを作成しきちんと対応ができるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については年2回の訓練を行い昼夜の対応の方法を身につける努力を行なっている。 地域の方々へは運営推進委員会を通して協力を働きかけている。	○	今後、自治会等へ参加出来るようになれば、直接 地域の方々に協力を得る事が出来ると思う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに関しては ご家族様に十分に話し合いを重ね説明を行なっている。 また、可能な限り抑圧感が無いように対応策を検討している。	○	利用者様の高齢化と共にリスク率が上昇して行くのは避けられないが、可能な限り抑圧感の無い生活をして行く為にも、ご家族様との話し合って軽減していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員全員が利用者様の普段の様子を把握する事で体調不良や変化に気付き、早く対応する事が出来ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤に関しては副作用等を記載したファイルを別に作成している。 副作用など完全には理解出来ていない。服薬支援、変化の確認に努めている。	○	副作用等、全員分記憶するのは難しいが、利用者様の生命にも関わる事なので学習していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や繊維質の物を多く摂取して頂いたり、ご飯には寒天を入れ体操や棟内歩行等、対応に日夜努力している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行い、その際に嗽も併せて行っている。 更に、眠前には薬剤(ホリデント等)を使用し消毒を行なっている。	○	口腔ケアは感染にも繋がる事柄なので、常に配慮し注意し 今の現状を維持したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食時量を設定し、バランスにも配慮している。また、水分量にも注意し個々に計測し記録している。病状を把握し量など注意している。水分摂取が苦手な方には工夫し摂取したり支援している。	○	高齢者にとって食事は当然の事だが、水分は非常に重要な位置にあると思う。日々、記録する事は本人様の変化も著名に見えてくるので継続して行きたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染マニュアルの綴りがあり、それに準じて予防や蔓延防止に努めている。職員と共にインフルエンザ予防接種を、年一度している。手洗い、嗽をてっていている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器の洗浄や消毒に努め、食材も一日分を直接配達してもらっている。必要な場合は消毒を行い安全に努めている。	○	食中毒には敏感に配慮し常に注意している。ハイター漬けを徹底し安全な食材の使用と管理に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に観葉植物や花を置く等したり、中の様子を見やすくして来客者が気兼ねなく入れるようにしている。ベンチに花を置き安心して出入り出来る様にしている。	○	特に入り難い雰囲気は感じないが、観葉植物や花を飾る等の工夫は良いと思うので継続したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強い日差しが入り眩しい時があるのでロールカーテンをしたり、廊下にはフラインドをしたりして対応している。食事の匂い、台所の音、ちまき作り、餅つきなど生活観、季節感えお取り入れ工夫している。	○	不快な光に関しては一部の利用者様から苦情が出た事があり、それに関しては迅速且つ柔軟に対応してきた。これからも季節感を取り入れホームを充実し楽しんで頂きたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室や廊下のベンチで気の合った利用者様同士で話をしたり横になったり、談笑して思い思いに過ごせる工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやコタツ等、今まで使っておられた家具を持って来て頂いたり好みを聴取し可能な限り居心地が良いように努力している。	○	可能な限り利用者様自身の自宅に近付ける様に家具を持ち込んだり雰囲気近付けていけるように家族への協力を呼びかけ、継続して努めて行く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気を行なっているし、天気の良い日等は窓を開ける等して換気をし温度調節など状況を見て行なっている。 但し、気温調節は個々により体感温度が違い苦慮している。		個々の好みや体感温度が違い調節が困難であるが、個々の表情や様子を観察し、可能な限り希望に添えるようにしたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の幅も狭くしてあり、手を延ばせば手摺に掴まれる位の幅にしてあるので、不安定ながらも自立で歩行出来るようになってい 段差も少なく安全に生活できているように思う。問題があればただちに改善する様努めている。	○	床材を杉板にする事で軟らかい素材になっており、下肢の疾病のある方でも症状が和らぐ傾向にあるし、転倒した場合も普通のフローリング等の床材よりクッション性に優れており良いと思う。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の認知能力に応じて声掛けや説明を行い、受容態度で対応する事により、可能な限り自立した生活が送れる様に努めている。 混乱、失敗の無い様、日々観察し問題があれば、直ちに対応している。	○	個々の認知能力に応じて対応し、相手の方を受容する接し方が出来るように研修会への参加や自己研鑽に日々努めて行かなければならない。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで洗濯物を干す、イベント(トライアスロン、航空祭等)の時ベランダに出て応援したり、ベランダで日光浴をしたり活動出来るようになっていっている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が落ち着いて暮らせる様に、個々の性格や個性等を把握し、その方に合わせた対応している。
 また、安全に安心して暮らして頂ける様に疾病や日々の状態変化を観察し、主治医等との情報交換をするように努めている。
 更に、個人の認知や身体能力に応じて可能な日課をして頂く事で、個々の生き甲斐や活性化に繋げられる様に日々の支援を行なっている。

スタッフ全員で利用者様の介護計画の案や思いを出し合い話し合っている。

感染予防（手洗い・嗽・共有で使用する物の消毒）、季節感を感じて頂く為施設の中に菜園がある。

鳥取杉を使った木造和風建築、明るい日差しが施設内には降り注ぎ、自然にも囲まれ、ゆったりとした感じがします。

菜園の野菜の成長も とっても楽しみです。

利用者様中心、利用者様本意の暮らしの場となる様、スタッフは情報を共有し合い、良いケアを目指している。

生活行事や昔ながらの風習を多く取り入れ、利用者様が生き生きと暮らせる様、支援している。